指導計画案

時限	導入	展開	まとめと発展
指導上の重点目標	1 和歌・短歌を言語文化の流れとして理解させる。	1 「折句」の方法について確認する。	1 折句を使用して短歌を作る。各自が作成した短歌を互いに鑑賞する。
学習活動	① 和歌と短歌が言語文化として連続したものであることを確認し、短歌作成のための導入とする。知技 ② ワークシートと振り返りシートを配布する。	① 和歌と短歌が、どのようなテーマで歌われているかを確認する。思判表 ② 歌の技巧について振り返る。知技 ③ 歌の技巧の中で、特に折句について理解する。知技 ④ 折句を使って短歌を実作する。思判表・主態 ⑤ 作成した歌について、互いに鑑賞し合い、意見を聞いて、修正する。思判表・主態	① 各グループで推薦する歌を披露して、まとめとする。 ② 振り返りシートに記入させる。
指導上の留意点	① 「単元の言語活動１」の序文を利用し、短歌作成に対する親しみを感じさせる。	① 1を実施して、和歌と短歌で歌われている内容を確認させる。この時、和歌と短歌を通観する視点を持たせる。また、自身が実作するテーマについても考えを及ばせる。 ② 2を実施して、歌の技巧について関心を持たせる。 ③ ・3①を実施し、折句について確認させる。 ・〔参考〕を利用し、折句の方法が古典作品だけでなく、現代にも利用されていることを理解させる。 ＊現代、「折句」は「縦読み」とも言われている。この点を認識させ「折句」を身近に感じさせる。 ④ 3②～⑥の手順に従って実作させる。 ＊折句にする五音は、最初から一つに絞らずにいくつか候補を挙げ、実作の折は臨機応変に使用させる。 ＊万一にも、友人を揶揄・中傷する歌にならないようにあらかじめ注意しておく。 ⑤ 互いに鑑賞・批評させ、五七五七七のリズムの継承と変化について実感させる。また、修正によって歌がよりよくなっていくことも理解させる。	① まとめとして友人の作成した短歌を鑑賞し、和歌や短歌についての認識を新たにさせる。